

6 業務概要

ウイルス課

当課では、感染症や食中毒に係る病原微生物に関する試験検査、食品・飲料水などのウイルス検査を実施した。また、感染症発生動向調査及び感染症流行予測事業（インフルエンザ、日本脳炎）等を実施し、感染症の動向を総合的に把握し、分析することによって感染症の予防及びまん延防止に努めた。

平成22年度の検査状況は、表1に示すとおりである。総検査数は、2,713件であった。

表1 ウイルス課試験検査（平成22年度）

平成23年3月31日現在

項目	検査件数	検体数			項目別検査数
		行政検査	依頼検査	調査研究	
感染症発生動向調査事業	169		8	177	708
インフルエンザ流行予測調査	229			229	916
麻疹流行予測調査	229			229	229
日本脳炎流行予測調査	80		80	160	160
インフルエンザ様集団発生	45			45	225
食中毒・感染性胃腸炎集団発生	77			77	347
梅毒	1			1	2
エイズ	5			5	10
リケッチア					
その他	5		20	25	113
原虫（水道・河川水）	2			2	4
合計	842		108	950	2,713

1 行政検査

(1) 感染症発生動向調査事業

27病原体定点などから、平成22年度は169検体が搬入され、患者はインフルエンザ、咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎、麻疹、急性脳炎、流行性耳下腺炎などであった。検出されたウイルスは、インフルエンザウイルス、コクサッキーウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルス、A群ロタウイルス、A型肝炎ウイルス、パルボウイルスなどであった。(表2)

事例・資料編：佐賀県感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況
(平成22年度)参照

表2 病原体定点など

	インフルエンザ	小児科	基 幹	定点外
定点数	2	2	5	18

(2) インフルエンザ流行予測調査事業

平成22年度は、0歳から74歳までの血清229名分について、インフルエンザウイルス抗体保有状況調査(感受性調査)を実施した。

事例・資料編：感染症流行予測調査事業におけるインフルエンザ感受性調査概要
(平成22年度)参照

(3) 麻疹流行予測調査事業

平成22年度は、0歳から74歳までの血清229名分について、麻疹ウイルス抗体保有状況調査を実施した。

事例・資料編：感染症流行予測調査事業における麻疹感受性調査概要
(平成22年度)参照

(4) 日本脳炎流行予測調査事業

日本脳炎ウイルスに対する豚の感染状況を分析し、その流行を推定することを目的として実施した。平成22年度は、ブタ80頭について日本脳炎ウイルス抗体保有状況調査(感染源調査)を実施した。

事例・資料編：感染症流行予測調査事業における日本脳炎感染源調査概要
(平成22年度)参照

(5) インフルエンザ様集団発生事例

平成22年度は、13事例、45検体について調査した。

事例・資料編：佐賀県におけるインフルエンザの流行(2010/11シーズン)参照

(6) 食中毒・感染性胃腸炎集団発生事例

平成22年度は、12事例、77検体(便57件、吐物1件、ふきとり1件、食品18件)について調査した(表3)。

(7) 梅毒検査

佐賀県特定感染症検査事業の梅毒血清反応検査実施マニュアルに基づいて、平成22年度は、血清1検体について確認検査(F T A - A B S法)を実施し、その結果は陰性であった。

(8) エイズ検査

佐賀県特定感染症検査事業のHIV抗体検査実施マニュアルに基づいて、平成22年度は、血清5検体について二次スクリーニング検査および確認検査を実施し、結果はすべて陰性であった。

(9) その他(漂流物)検査

漂流物等の行政検査についてはHIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスの遺伝子(PCR法)検査を実施した。平成22年度は試薬ビンや針付き注射筒などの漂流物5件について検査を実施したが、すべて陰性であった。

(10) 原虫(簡易水道・河川水など)

平成10年度から21年度にかけてクリプトスポリジウム、ジアルジアについて県内の主要河川の検査を実施してきたが、すべて検出されなかった。

平成22年度は、小規模水道2定点について検査を実施したが、いずれも検出されなかった。

2 調査研究

(1) A型肝炎ウイルス調査

平成22年度に7例(患者便7件、井戸水1件)のA型肝炎発生届出があり、分子疫学的な調査を実施した。なお、本調査は、平成22年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)「A型肝炎発生報告増加に対する食品衛生上の原因究明と予防対策」の研究協力として報告「佐賀県におけるA型肝炎事例と分子疫学的検討」した。

(2) 日本脳炎ウイルス調査

日本脳炎流行予測調査事業における豚の感染源(抗体保有状況)調査で使用した血清(80件)について、日本脳炎ウイルス遺伝子の検索を実施した。

(3) 下水中の病原ウイルス調査

平成18年から厚生労働科学研究費補助金(食品の安心・安全確保推進研究事業)「食品中の病原ウイルスのリスク管理に関する研究」の研究協力調査を実施している。平成22年度は、10ヶ月間(6月から3月)に下水処理施設1定点から流入水および放流水を採取し、下痢症ウイルス(ノロウイルス、アストロウイルスなど)の汚染状況調査を実施した。なお、平成22年度の調査結果は、「佐賀県における下水中のウイルス検出状況」として報告した。

表3 食中毒・感染性胃腸炎集団発生事例とウイルス検出状況一覧(平成22年度)

No.	依頼日	原因施設 (推定)	管轄 保健所	検体	P C R 検査結果			
					検出ウイルス	検体数	陽性数	遺伝子型
1	H22.6.17	教育施設 (高等学校)	杵藤	便	(-)	4	0	
2	H22.6.22	宿泊施設 (民宿)	唐津	便	(-)	3	0	
3	H22.7.6	飲食店	唐津	便	(-)	3	0	
4	H22.10.1	教育施設 (高等学校)	伊万里	便	(-)	4	0	
5	H22.10.13	飲食施設	伊万里	便	(-)	3	0	
6	H22.11.10	結婚式場	鳥栖	便	NV	9	5	G /4
				食品	(-)	12	0	
7	H22.11.15	宿泊施設	杵藤	便	(-)	9	0	
				拭取り	(-)	1	0	
				食品	(-)	6	0	
8	H22.11.29	医療施設	鳥栖	便	NV	5	5	G11/4
9	H23.1.18	宿泊施設	佐賀中部	便	(-)	13	0	
10	H23.1.20	介護老人施設	佐賀中部	便	NV	1	1	G /4
11	H23.1.28	教育施設 (小学校)	佐賀中部	便	NV	1	1	G /2
				吐物	(-)	1	0	
12	H23.2.14	飲食施設 (県外)	杵藤	便	NV	2	2	G1/3

(-) : 陰性

NV : ノド付入

細菌課

感染症法指定微生物、食中毒指定微生物及び食品衛生、環境衛生に係る病原微生物の試験検査を実施した。また、感染症発生動向調査事業、感染症流行予測事業等を実施した。

平成22年度の検査状況は、表1に示すとおりである。総検査件数は、5,503件であった。

表1 細菌課試験検査(平成22年度)

平成23年3月31日現在

項目	検査件数	検 体 数			項目別検査数	
		行政検査	依頼検査	調査件数		小計
感染症新法指定菌		556			556	1,880
食中毒		132			132	915
分離菌株		1			1	9
感染症発生動向調査事業		280			280	1,276
食品		626			626	1,182
飲料水						
クラミジア		97			97	97
原虫						
その他		117			117	144
合計		1,809			1,809	5,503

1 行政検査及び依頼検査

(1) 感染症法指定病原菌、分離菌株の同定

一類感染症はなかった。

二類感染症である結核は、2事例7名の検査依頼があったが、結核菌は検出されなかった。

県内の医療機関から結核の届出があった8名については集団発生が疑われたため、6検体を大分県衛生環境研究センターへ結核菌分子疫学解析(VNTR法)を依頼した。その結果、5検体については同じ遺伝子パターンを示した。

三類感染症である細菌性赤痢は、2事例2名の発生があった。内訳は *Shigella flexneri* が1名、*S. sonnei* が1名であった。腸管出血性大腸菌感染症は、37事例62名(有症者は33名、無症状病原体保有者は29名)の発生があった。内訳は0157(40名)、0103(11名)、0156(3名)、076(2名)、0121(2名)、026(1名)、091(1名)、0119(1名)、0群血清型別不明(1名)であった(表2)。0156と076については、当所では型別不能だったため、国立感染研究所へ検査依頼し判明した。

パラチフスAは、1事例1名(有症者)の発生があった。

四類感染症であるライム病は、1患者2検体(血清と髄液)を国立感染症研究所に検査を依頼した。抗体検査の結果、血清、髄液ともに陰性であった。

保健福祉事務所から集団給食施設従事者の検便より分離した菌株の同定依頼は 1 件あり、*Citrobacter freundii* と同定された。その他に医療機関から保健福祉事務所へ相談のあった 2 件について同定検査を行い、*Escherichia coli* 01 : HUT、*Escherichia coli* 026 : H51 (Vero 毒素 陰性) と同定した。

表2 腸管出血性大腸菌感染症発生状況一覧 (平成22年度)

NO	保健所	届出日	住所(市郡)	性別	年齢区分	血清型	V T 型	区分	備考
1	佐賀中部	2010/4/8	佐賀市	男	10-12歳	O121	HUT	VT2	患者
2	杵藤	2010/6/22	武雄市	男	1-3歳	O26	H11	VT1	患者
3	伊万里	2010/7/5	伊万里市	女	50-59歳	O157	H7	VT2	患者 NO.3
4	伊万里	2010/7/7	伊万里市	男	30-39歳	O157	H7	VT2	保菌者 NO.3の子
5	伊万里	2010/7/20	伊万里市	女	80歳以上	O157	H7	VT1+VT2	患者
6	杵藤	2010/7/20	武雄市	女	10-12歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
7	佐賀中部	2010/7/14	佐賀市	女	30-39歳	O121	H19	VT2	患者
8	佐賀中部	2010/7/26	佐賀市	女	19-29歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
9	杵藤	2010/7/29	武雄市	男	13-15歳	O157	H7	VT2	患者 NO.9
10	杵藤	2010/7/30	武雄市	男	40-49歳	O157	H7	VT2	患者 NO.9の父
11	杵藤	2010/7/31	武雄市	男	16-18歳	O157	H7	VT2	保菌者 NO.9の兄
12	伊万里	2010/8/2	西松浦郡	女	1-3歳	O103	H2	VT1	患者 NO.12
13	伊万里	2010/8/4	西松浦郡	女	19-29歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12の母
14	伊万里	2010/8/5	嬉野市	女	1-3歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12と同保育園児1、NO.14
15	伊万里	2010/8/5	西松浦郡	女	1-3歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12と同保育園児2
16	伊万里	2010/8/5	西松浦郡	男	1-3歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12と同保育園児3
17	伊万里	2010/8/5	嬉野市	男	1-3歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12と同保育園児4
18	伊万里	2010/8/5	長崎県	女	1-3歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12と同保育園児5
19	伊万里	2010/8/5	西松浦郡	女	1-3歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12と同保育園児6
20	伊万里	2010/8/8	西松浦郡	女	50-59歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.14の祖母
21	伊万里	2010/8/8	西松浦郡	男	4-6歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12と同保育園児7
22	伊万里	2010/8/12	西松浦郡	男	1-3歳	O103	H2	VT1	保菌者 NO.12と同保育園児8
23	伊万里	2010/8/5	西松浦郡	女	50-59歳	O156	H1	VT1	保菌者
24	伊万里	2010/8/9	西松浦郡	男	1-3歳	O157	H7	VT1+VT2	患者 NO.24
25	伊万里	2010/8/11	西松浦郡	女	4-6歳	O157	H7	VT1+VT2	保菌者 NO.24の姉2
26	伊万里	2010/8/11	西松浦郡	女	7-9歳	O157	H7	VT1+VT2	保菌者 NO.24の姉1
27	伊万里	2010/8/11	西松浦郡	女	30-39歳	O157	H7	VT1+VT2	保菌者 NO.24の伯母
28	佐賀中部	2010/8/11	佐賀市	男	40-49歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
29	鳥栖	2010/8/16	鳥栖市	女	60-69歳	O157	H7	VT2	患者
30	伊万里	2010/8/16	西松浦郡	女	19-29歳	O157	H7	VT2	患者
31	佐賀中部	2010/8/15	佐賀市	男	4-6歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
32	杵藤	2010/8/19	嬉野市	男	7-9歳	O157	H7	VT1+VT2	患者 NO.32
33	杵藤	2010/8/20	嬉野市	男	30-39歳	O157	H7	VT1+VT2	保菌者 NO.32の父
34	佐賀中部	2010/8/20	佐賀市	男	60-69歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
35	佐賀中部	2010/8/25	佐賀市	女	70-79歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
36	佐賀中部	2010/8/15	佐賀市	男	13-15歳	O157	H7	VT2	患者
37	唐津	2010/8/28	唐津市	男	1-3歳	O157	H7	VT1+VT2	患者 NO.37
38	唐津	2010/8/31	唐津市	男	1-3歳	O157	H7	VT1+VT2	患者 NO.37と同保育園児
39	佐賀中部	2010/8/31	神埼市	男	13-15歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
40	佐賀中部	2010/8/31	小城市	女	1-3歳	O157	H7	VT1+VT2	患者 NO.40
41	佐賀中部	2010/9/1	小城市	男	60-69歳	O157	H7	VT1+VT2	患者 NO.40の祖父
42	佐賀中部	2010/9/1	小城市	男	4-6歳	O157	H7	VT1+VT2	保菌者 NO.40の兄
43	佐賀中部	2010/9/2	佐賀市	女	30-39歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
44	佐賀中部	2010/9/2	佐賀市	女	19-29歳	O157	H7	VT1+VT2	患者
45	鳥栖	2010/9/2	鳥栖市(職場)	女	30-39歳	O157	H7	VT2	保菌者 福岡市在住
46	伊万里	2010/9/6	伊万里市	男	80歳以上	O157	H7	VT1+VT2	患者
47	唐津	2010/9/17	唐津市	女	19-29歳	O156	H1	VT1	保菌者
48	佐賀中部	2010/10/19	佐賀市	女	70-79歳	O157	H7	VT1+VT2	患者 NO.48
49	佐賀中部	2010/10/21	佐賀市	女	40-49歳	O157	H7	VT1+VT2	患者 NO.48の嫁
50	唐津	2010/11/5	唐津市	女	70-79歳	O157	H7	VT2	患者
51	伊万里	2010/11/17	西松浦郡	女	50-59歳	O156	H1	VT1	保菌者
52	鳥栖	2010/12/13	三養基郡	女	19-29歳	O91	HNM	VT1	保菌者
53	杵藤	2010/12/16	鹿島市	女	60-69歳	OUT	H51	VT1	保菌者
54	佐賀中部	2010/2/3	小城市	女	19-29歳	O119	H7	VT1	保菌者
55	杵藤	2010/2/16	鹿島市	女	30-39歳	O76	HUT	VT1	保菌者 NO.55
56	杵藤	2010/2/19	鹿島市	女	50-59歳	O76	HUT	VT1	保菌者 NO.55の母
57	鳥栖	2010/2/23	鳥栖市	男	7-9歳	O157	H7	VT2	患者 NO.57
58	鳥栖	2010/2/25	鳥栖市	女	7-9歳	O157	H7	VT2	患者 NO.57の妹1
59	鳥栖	2010/2/25	鳥栖市	男	4-6歳	O157	H7	VT2	保菌者 NO.57の弟
60	鳥栖	2010/2/25	鳥栖市	女	1-3歳	O157	H7	VT2	保菌者 NO.57の妹2
61	鳥栖	2010/2/28	鳥栖市	女	40-49歳	O157	H7	VT1+VT2	保菌者
62	杵藤	2010/3/28	武雄市	男	16-18歳	O157	H7	VT2	患者

(2) 食中毒検査

下痢や嘔吐等の食中毒様症状を呈した15事例について、患者便や保存食、施設の拭取り等132検体の検査を実施した。1事例からカンピロバクターが検出された(表3)。

表3 食中毒・有症苦情検査状況

	依頼日	発生施設	管轄保健所	主症状	発症者数	検体数	原因食品	検出菌	原因物質
1	H22.4.20	県外	鳥栖 佐賀中部	嘔吐、下痢 腹痛、発熱	16 (佐賀県5)	便4	不明	-	不明
2	H22.6.9	販売店	鳥栖 (佐賀中部)	下痢、発熱	2	食品4	不明	<i>Salmonella sp</i>	不明
3	H22.6.17	学校	杵藤	下痢、発熱	10	便5	不明	-	不明
4	H22.6.22	県外	杵藤	下痢、発熱 嘔吐、腹痛	20 (佐賀県3)	便3	不明	<i>Bacillus cereus</i>	不明
5	H22.6.22	県外	唐津			便3	不明	-	不明
6	H22.6.28	販売店	伊万里	下痢、嘔吐 発熱、寒気	1	便2 食品1	不明	<i>Bacillus cereus</i>	不明
7	H22.7.5	飲食店	唐津			便16、食品2 拭取り10	不明	<i>Campylobacter</i>	不明
8	H22.7.27	飲食店	杵藤 佐賀中部	下痢、嘔吐 発熱	2	便13 拭取り4	不明	-	不明
9	H22.8.5	家庭内	唐津	腹痛、下痢	3	便8 水1	不明	-	不明
10	H22.9.8	飲食店	唐津			便29 拭取り10	不明	<i>Campylobacter jejuni</i>	<i>Campylobacter jejuni</i>
11	H22.10.5	飲食店	佐賀中部	下痢、嘔吐	5	便3	不明	-	不明
12	H22.10.6	学校	伊万里	嘔気、嘔吐	7	便3	不明	-	不明
13	H22.10.14	飲食店	伊万里	吐き気、軟便 倦怠感	7	便3	不明	<i>Bacillus cereus</i>	不明
14	H22.11.9	結婚式場	鳥栖			便9	不明	-	不明
15	H22.11.16	販売店	伊万里	下痢、嘔吐	2	便2	不明	-	不明

(3) 食品の収去検査

収去計画に基づき食品中の生菌数、大腸菌群、食中毒菌等について626検体(総検査1,182件)を検査した(表4)。

そのうち違反は18件あり、内訳は成分規格違反が2件、衛生規範違反が16件であった。

表4 食品収去

項目		佐賀		鳥栖		唐津		伊万里		杵藤	
		検体数	*違反数	検体数	*違反数	検体数	*違反数	検体数	*違反数	検体数	*違反数
		137	5	120	3	130	1	110	7	129	2
項目別 検査数	生菌数	70	2	65	1	100	0	80	3	79	1
	E. Coli	22	1	21	0	31	0	20	0	32	0
	大腸菌群	81	2	67	2	68	1	68	4	69	1
	サルモネラ	10	0	8	0	10	0	0	0	0	0
	黄色ブドウ球菌	36	0	36	0	59	0	38	0	42	0
	腸炎ピブリオ	20	0	10	0	10	0	10	0	10	0
	計	239	5	207	3	278	1	216	7	242	2

* 成分規格基準及び衛生規範基準に対する違反

(4) 環境衛生に係る病原体微生物の検査

水道水質管理計画に基づき 6 件の従属細菌検査を実施した。

(5) 産業廃棄物最終処分場に関する試験検査

水質モニタリング検査 (大腸菌群) を最終廃棄物処分場 47 件、事業所排水 4 件実施した。

(6) 水浴に供される公共用水域の水質調査

県内の水浴に供される公共用水域 (海水浴場) 10 ヶ所について、開設前 (5 月) と開設 (7 月) の計 2 回にわたり腸管出血性大腸菌 0157 とふん便性大腸菌群数検査を実施した。

その結果、全ての水域から 0157 とふん便性大腸菌群は検出されなかった。

(7) クラミジア検査

佐賀県特定感染症検査実施要領に基づき、酵素免疫抗体測定法 (ELISA 法) により 97 検体を実施した。そのうち陽性件数は 21 件であった。

(8) 感染症発生動向調査事業

25 病原体定点から搬入された感染性胃腸炎患者の検体について、赤痢菌、下痢原性大腸菌、サルモネラ属菌、腸炎ピブリオ、コレラ、黄色ブドウ球菌、カンピロバクター、セレウス菌、ウェルシュ菌について 3 検体の検査を行った。

A 群溶血性レンサ球菌について、群別確認と T 型別検査を 17 菌株行った。

事例・資料編：佐賀県の A 群溶血性レンサ球菌について (平成 22 年度) 参照
散発下痢症の調査として、細菌性下痢症由来のサルモネラ属菌の血清型別検査を 24 株行った。
下痢原性大腸菌疑いの大腸菌株について血清型別および PCR 法による病原因子検査等を 236 株行った。

(9) その他

漂流医療廃棄物 (注射器・針、バイアル瓶) について、腸管出血性大腸菌 0157、細菌性赤痢、コレラ、腸チフス・パラチフス A について 5 件の検査を行ったが、全て菌は検出されなかった。

2 共同調査・研究

(1) 九州 12 機関におけるパルスネット構築に向けた基礎的研究

食品由来感染症の細菌学的疫学指標のデータベース化に関する研究

(九州各県地方衛生研究所及び国立感染症研究所と共同)

(2) 溶血レンサ球菌感染症の九州ブロック共同調査

平成 3 年 4 月から結核・感染症事業 (現感染症発生動向調査事業) の一環として、九州 3 県 (大分、沖縄、佐賀) の共同調査に参加し、T 型別検査及び菌株の送付を行った。その情報還元として、年 1 回九州及び全国の発生状況の集計報告を受けた。

3 研修・指導

平成 14 年度から、「佐賀県感染症予防計画」に基づき、感染症法に係る微生物検査の検査精度の維持・向上を図るため、平成 22 年度は県内臨床検査施設 (12 施設) を対象に外部精度管理を実施した。

事例・資料編：感染症にかかる外部精度管理調査概要 (平成 22 年度) 参照

保健福祉事務所職員等に対して、保健サービスを地域住民に迅速に提供することができるよう、保健衛生に関する知識を習得する目的で研修会を実施し、32 名の参加者があった。

4 感染症情報センター

感染症の予防及びまん延防止を目的とし患者情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を提供するため、下記の事業を行った。

発生動向調査による患者情報及び病原体情報を集計・分析した結果を「佐賀県感染症発生動向調査速報 (週報・月報)」として定点医療機関、市町衛生担当課、教育委員会、医師会、健康増進課、体育保健課、こども未来課、医務課、保健福祉事務所あてに送付している。また一般県民及び医療機関向けに、感染症情報をホームページに掲載している。

三類感染症については平成 8 年度 (赤痢、腸チフス・パラチフス A については、平成 11 年度) からの感染症患者情報をファイリングし、検索・集計できるようにシステム化を行っている。

医療機関での病原微生物の検出状況を把握することにより、感染症および食中毒の早期流行状況を検知することを目的とし、平成 11 年度から県内医療機関で検出された病原微生物の月報の集計を行っている。

事例・資料編：佐賀県における病原微生物検出状況 (平成 22 年度) 参照

食品化学課

食品衛生関係では、食品中の残留農薬、残留動物用医薬品、食品添加物、陶磁器の規格試験等について行政検査を実施した。また、危機管理に関する検査、精度管理調査、調査研究等を行った。

平成22年度の概要は次のとおりである。

1 行政検査

(1) 食品衛生関係

食品製造・加工技術等の高度化、輸入食品の増加に伴う食品の多様化及び流通の広域化・長期化等による食品による危害を防止するため、食品添加物等、食品中の残留農薬・残留動物用医薬品について検査を行った。

平成22年度の検査状況は表1のとおりである。

表1

検査区分		検体数	延検査項目数
農産物及び加工食品の残留農薬	国産品	151	10490
	輸入品	32	1117
食品添加物		142	436
成分規格検査	乳	24	92
	米(カドミウム)	9	9
陶磁器規格検査(鉛・カドミウム)		15	30
残留動物用医薬品		13	120
計		386	12,294

2 危機管理関係

健康危機管理対策として、毎年、九州地区衛生研究所理化学部門広域連携模擬演習に参加する等、理化学検査体制の充実を図っている。

平成22年度の危機管理関係の検査状況は表2のとおりである。

表2

検査区分	検体数	延検査項目数
理化学部門健康危機管理模擬演習	1	5
計	1	5

3 精度管理

食品検査の信頼性を確保するため、内部精度管理（検査部門が自ら行う検査精度の確認）及び外部精度管理（外部の検査機関に依頼して行う精度の確認）を行い検査技能の向上を図っている。

平成 22 年度の精度管理関係の検査状況は表 3 のとおりである。

表 3

検 査 区 分		検体数	延検査項目数
精度管理	G L P 内部精度管理	9 9	5 1 5 4
	G L P 外部精度管理調査	4	1 6
計		1 0 3	5 1 7 0

4 調査研究

環境衛生課と共同で、調査研究を行っている。

研究テーマ

- 1) 茶葉の品質評価に関する研究（茶業試験場との共同研究）
- 2) 貝毒の定量手法に関する研究
- 3) ミクロシスチンの定量手法に関する研究

環境衛生課

産業廃棄物に関する検査、環境保全に関する一般項目検査、水道に関する検査及び精度管理、家庭用品検査を実施している。さらに、健康危機管理、危害防止及び水質事故等における検査も実施している。また、独自の調査や検査方法の開発を初め、県その他機関や大学等との共同研究にも参加している。平成22年度の業務概要は次のとおりである。

1 行政検査

環境衛生の確保及び公衆衛生の向上のため、水道原水、家庭用品等の検査、環境保全関係では一般項目検査や産業廃棄物処分場放流水等の検査を行った。

また、魚へい死等の水質事故等発生時は、環境センター及び保健福祉事務所と連携をとり、原因究明検査を行なった。

平成22年度

検査区分	検体数	延検査項目数
産廃最終処分場モニタリング調査(管理型)	116	1,395
産廃最終処分場モニタリング調査(安定型)	155	2,039
産廃最終処分場モニタリング調査(河川)	16	144
産廃(その他)	18	300
特定事業場排水の一般項目検査	278	1,009
海水浴場の一般項目検査	40	80
水道水質管理目標設定項目検査	12	780
家庭用品(ホルムアルデヒド)	6	6
魚へい死等水質事故等原因究明検査 (農薬及び一般化学物質のスクリーニング検査等)	28	6,163
計	669	11,916

2 精度管理調査

検査技術の向上を図るために、国が実施する外部精度管理に参加した。

- 1) 水道水質検査精度管理調査(厚生労働省) 件数:2件 述項目数:35
 - ・無機物分析用試料(測定項目:カドミウム)
 - ・有機物分析用試料(測定項目:フェノール類)
- 2) 環境測定分析統一精度管理(環境省) 件数:2件 述項目数:15
 - ・土壌試料(測定項目:鉛、銅、カルシウム)
 - ・水質試料(測定項目:ジクロロボス、フェノブカルブ)

3 調査研究

県内の検査・研究機関のリーダー的役割を担うために、現在の検査技法(手法)に加えた新たな手法の研究開発に取り組んだ。また、県内外の大学や県内の他機関と共同での研究開発にも参加した。

研究テーマ

- 1) 液体クロマトグラフ/質量分析用全自動同定・定量データベースシステムの開発
(北九州市立大学、福岡県保健環境センター、国立医薬品食品衛生研究所との共同研究)
- 2) 茶葉の品質評価(茶業試験場との共同研究)
- 3) 環境水中の農薬迅速分析手法に関する研究
- 4) ミクロシスチンの定量手法に関する研究
- 5) 食品中の農薬等迅速分析手法に関する研究
- 6) 貝毒の定量手法による研究
- 7) 葉菜類の希少元素(Sb、Bi)に対する吸収・移行特性および育成反応に関する研修
(佐賀大学農学部との共同研究)

医薬品課

本県の主要産業である医薬品製造業の振興を図るため、技術指導・支援、研究等を行うとともに、県内産の医薬品の品質を確保するため、製品を収去し主成分の含有量等の検査を行った。

また、薬効を標榜する無承認無許可医薬品による健康危害の未然防止および被害拡大を阻止するため、健康食品の買上げ調査を実施した。この結果、強壮効果を標榜する健康食品から強壮成分である医薬品成分を検出したので、県ホームページにより県民の皆様に注意喚起のお知らせをすることで、健康被害防止に寄与した。

厚生労働省が医薬品等の一斉監視指導の一環として実施している後発医薬品の品質確保対策事業に参加し、後発医薬品(収去品)の溶出試験を行った。

その他、本県で栽培されている繊維用無毒化大麻草の交雑の有無の検査、天然資源中の有効成分の研究としてお茶に含有されているカテキン類の分析、医薬品に関する微生物管理の一環として医薬品製造室の空中浮遊菌数の検査等を行った。

平成22年度の概要は次のとおりである。

1 相談・指導状況

内 容	年 度	件 数
新製剤・製造改良		0
試験検査・規格試験指導		2
GMPに関する指導		23
その他(法規・薬用植物等)		41
製造・品質管理者技術研修		
1) 研修会開催		5
2) 産官合同研究発表		6

2 試験検査等実施状況

内 容	年 度	件数(項目)
依頼試験(規格試験、品質試験、その他)		10(17)
行政検査		38(229)
調査研究		27(63)

3 医薬品製造承認審査

平成22年度:5件

4 調査研究

1) 無承認無許可医薬品等の検査に関する研究

強壮効果を標榜するいわゆる健康食品中の強壮成分及び化粧品中医薬品成分等の高感度同時同定の開発に関する研究

- ・いわゆる健康食品の成分分析について
- ・未知医薬品類似成分のスクリーニング法の開発

2) 薬用天然資源の研究

天然資源の有効成分に関する基礎研究

- ・ *Paederia Lanuginosa* Wall. 葉の二次代謝成分解析

3) 医薬品製造室の空中浮遊菌に関する研究

2) 県内製薬業者の医薬品製造に係る新基準に対する支援研修: 3回(3件)

開催日	事業内容	場所	出席者数
H22.7.15	研修会 「新人社員を対象としたGXP教育」 講師: 東光株式会社 小寺 敬一	佐賀中部 保健福祉 事務所 別館会議 室	35名
H22.12.17	研修会 「GMP教育訓練とヒューマンエラーの対策」 講師: ファーマサービスイコマ 稲津 那平	佐賀中部 保健福祉 事務所 別館会議 室	39名
H23.3.18	研修会 「GMP適合性調査について」 講師: 薬務課製薬温泉担当 関本 順之	グランデ はがくれ	33名